

## 社会福祉法人ゆうゆう

## ケアファーム「Social Care Farm 野布瀬農園」(当別町)

○基礎情報【施設の経営形態：米及び野菜の生産】

【施設の従業員数：支援者3名、施設を利用する障害者数：14名】



&lt;問い合わせ先&gt; 社会福祉法人ゆうゆう ☎ 0133-22-2896

## 1 農福連携に取り組んだ経緯

Social Care Farm 野布瀬農園における農福連携の取組は、当別町で盛んな農業を通じ、障害者等が地域で共生できる場を創ることを実践し続けている社会福祉法人ゆうゆう(当別町)が、その活動の一環として、高齢化により農地を手放す人が増えている同町弁華別地区の耕作放棄地を利用し、同地区の基幹産業である農業の振興や、障害者就労における工賃向上を目指し、同法人が運営する生活介護事業所の利用者等の新たな就労支援場所として、令和元年4月にケアファームを開園したことによる。

## 2 取組内容

- (1) 就労形態：当別町及び江別市で同法人が運営する生活介護事業所並びに就労継続支援B型事業所の利用者が、約4.88ha(水田：3.04ha、畑：1.84ha)の農地及びハウスにおいて、農作業を行う。
- (2) 就労期間：通年
- (3) 就労時間：週数日、午前10時30分から12時00分及び午後2～3時間程度(1日最長で5時間程度)  
※上記は生活介護事業所からの利用者における一般例で、利用者と相談して決める。
- (4) 作業内容：農作業全般(生活支援員の間で相談しながら決定)

## 3 取組の特徴

- (1) 各作業工程を極めて細分化し、段取りを重視し、その日の作業準備を支援員が前もって行っている。
- (2) 利用者をチーム分けし、生活支援員がそれぞれの得意な分野に仕事を当てはめて分業を行っている。
- (3) 上記(1)及び(2)について、各利用者の特長を見極め、生活支援員の間で相談しながら進めることで、生活介護事業所からの利用者(主に重度の障害のある方や認知症の方)も効率的な作業を行っている。
- (4) 道具は使えなくても手が武器になるため、機械では手が回らない箇所の作業(例えば農地の隅の除草作業など)や、単純かつ量が多い作業(例えば大量に発生する使用済み育苗ポットの洗浄作業など)等、利用者が無理なく出来る作業を生活支援員が都度作り出している。
- (5) 広大な農地で屋外作業を行うことが、多くの利用者の健康増進に繋がっている。

## 4 施設運営の特徴

「Social Care Farm 野布瀬農園」で生産された米及び野菜は、同法人が運営するレストラン「ぺこぺこのはたけ」及びグループホームで消費する他、米はECサイトでの販売も行っている。

また、冬期間は、「ぺこぺこのはたけ」で生産物を加工し、令和2年2月に同法人が東京大学にオープンした「北海道の米と汁「U-gohan」」で使用するなど、農業の生産、加工から販売に至るまで、法人グループ内で上手く回るように仕掛けられている。

## 5 将来展望

- (1) 北海道の米と汁「U-gohan」の活動の他、法人として継続して取り組んでいるアール・ブリュット(既存の美術や文化潮流とは無縁の文脈によって制作された芸術作品：障害のある方による芸術文化を含む)の啓発活動などを通じ、より一般の方にインパクトを与えるような情報発信を行い、生産物及びその加工品をブランディングすることにより、販路開拓及び販売促進を進め、ひいては、障害年金と現在の工賃だけでは満足な収入を得ることが出来ない障害者の現状を打破するきっかけにしていきたい。
- (2) ユニバーサル就労の取組として、生活困窮で仕事の無い方に対しても就労支援を行っていききたい。
- (3) 農園で1日を過ごせるよう、敷地内にある旧住宅を改装して食堂設備を整えたい。